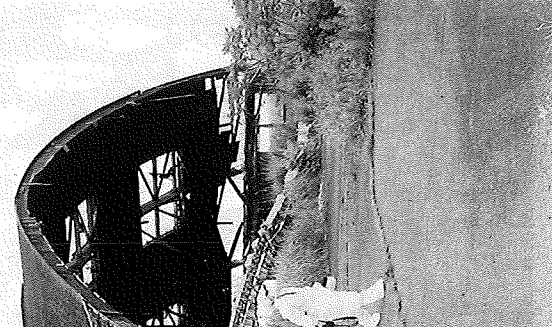


# の行方



ヒラメの稚魚の養殖などを行っていた大熊町は、津波で破壊された。震災当時のままだった。=2019年7月12日撮影

原発の排気筒と大型クレーン。2019年7月12日撮影



東京電力福島第一原発の事故で放射能に汚染された福島県内の土壌を保管するため、環境省は双葉、大熊両町にまたがる約千六百畝の区域に中間貯蔵施設を整備中だ。

同省は七月末までに、地権者の73%、面積の70%で契約を完了した。

八月八日には大熊町にある汚染土の受け入れ、分別施設が運転を開始し、運転中の同種施設は九つとなった。一帯はほとんどが帰還困難区域で、工事関係者や旧住民以外の立ち入りが制限される一聖域だ。そのため、汚染土の関

連施設以外は八年半前から時間が止まっている。ヒラメの稚魚の養殖施設も津波で破壊されたままだ。八月に行われた第一原発の汚染水に関する政府の小委員会では、「置き場のなくなる汚染水タンクを中間貯蔵施設用地に置

けないか」という提案があったという。この報道を聞き、「王だけでなく水もか」と一部地権者が困惑したことは言うまでもない。(写真・飛田豊秀 文・長久保宏美)

福島県松川運動記念会=電024(523)4183=。

◆JR只見線動画 東京駅で放映 福島県は10月31日まで、JR東京駅構内の電子広告板でJR只見線のPR動画を放映する。2021(令和3)年度の全線再開を目指し、只見線と沿線地域の魅力を発信し、観光客PRする。

動画は15秒で、三島町の第一只見川橋梁(きょうりょう)や只見町の田子倉湖など沿線の紅葉に染まった絶景を紹介する。県が昨年制作したプロモーション動画の映像から秋の風景を抽出してまとめた。1日当たり170回以上放映する。

電子広告板の画面は70センチ、内の東北・上越・北陸新幹線・南乗換口の柱に設置されている。

※福島県産品や催し物の案内を、原則毎月第2木曜日に掲載します。



日本橋ししまね館

営業時間 平日 午前10時30分~午後6時 土日祝日 午前11時~午後6時 (年末年始は休館)

〒03-0227 3917

# 視点

## 見張り塔からメディアの今

専修大教授・山田健太さん



### 芸術作品を巡る最近のトピック

2008.4 中国人監督による映画「靖国 YASUKUNI」が、映画館前で上映が中止に。複数の映画館で上映を受け、複数の文化振興会の助成を受けていたことから、自民党議員が助成金を返さずべきだと国会で発言、一方で文科相は「あってはならないこと」と上映を支持。12.6 新宿ニコサンでの安世鴻「重重 中国に残された朝鮮人元日本軍慰安婦」の女性たち」展に対しサロン側から取りやめ通告。裁判所の仮処分申請が認められ、嚴重警備のもと予定通り開催(大阪の巡回展は中止)。

12.8 東京都美術館「第18回J.A.A.L.A国際交流展」のキム・ソギョン&キム・ウンソン作の少女像が撤去。14.2 東京都美術館「現代日本彫刻作家展」の中垣克久の作品の撤去要請があり一部を撤去。

14.8 愛知県美術館「これからの写真」展の鷹野隆大の作品がわいせつ罪にあたり撤去。警察から撤去指導。作品の一部を布等で覆って再開。15.7 東京都現代美術館「おとなも子どもも考える ここはだれの場所?」展の会田家と会田誠の作品に對し、アーティストとアーティストの対峙をテーマにした作品の撤去要請。16.3 東京都現代美術館「キセイノセイキ」展で小泉明郎の作品が展示できず付近の私立ギャラリーで展示。18.2 国立新美術館における「東京五美術大学連合卒業・修了制作展」の作品搬入段階で美術館側からの要請で一部作品を撤去。

19.1 茅ヶ崎市民文化会館で開催された「湘南教職員美術展」で出展作品の内容を理由に茅ヶ崎市教育委員会が共催を辞退。作品取り下げをうけて復帰。

# 一番の被害者 作家と市民

会内展示会である三重構造であることによる、出品作家との十分な意思疎通がなかったことも、問題を複雑化している面があるようだ。作家からの作品へのリスペクトが足りない、芸術を創作意図に反して利用するなどの声は多い。そもそも、問題視されている作品の評価や展示の意味が議論されていないことも残念な点だ。実際、展示終了以後、一般には作品そのものを見る機会が全くなく、一番の被害者は作家であるとしても、同様に、見る機会を逸した一般市民が置き去りにされているのが気になる。通常の美術展とは異なり、公式図録等もなくこのままでは未来永劫、なぜ一部の市民が展示は認められないといったのかも含め(メール送信者や電凸の発信者も、実際には作品を見

ていない旨がすでに報じられているが)、議論が空回りしている面は拭えない。ほかにも、危機管理として警備や対応策が十分であったのかなども検証が必要だろう。また、検証委員会自身も、展示の再開を回避するためとらぬかねない議論内容で、人選の正当性も含め、これ自体も議論の対象だろう。

津田大介芸術監督が書いた「開催概要のコンセプト説明の冒頭は、「政治は可能性の芸術である」で、最後の言

葉が「われわれが見失ったアート本来の領域を取り戻す舞台は整った。トリエンテナが従来の芸術の殻を破る実験の場としての意味をもつことを考えると、彼を起用し、そこにあえて政治を持ち込んだことは、今日の社会の(程度)状況に芸術という風を送り込む意味でも意義があったと考えたい。これまで芸術作品に対しても続いてきた圧搾圧力を跳ね返すためにも、展示再開が強く期待される。(毎月第2木曜日に掲載)

## 不自由展の「不自由」

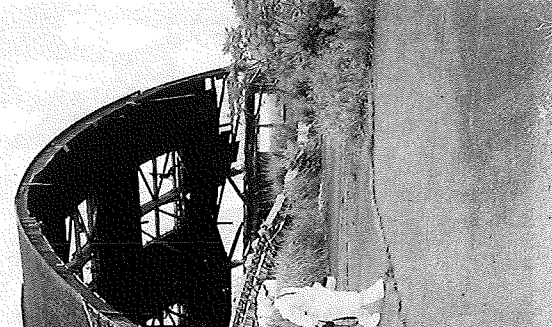
助金交付の見直しをほめかす発言をするなど、芸術と政治の関係にも話は広がった。公式発表通り脅迫メールや「電凸」によって継続が不可能と判断したとすれば、表現活動がいわば暴力に屈した典型例ともいえるし、さらにこれに政治的判断がかかわっていたとすれば、公権力による

なるだろう。関連して、中止に至る決定経緯の不透明性や、当事者を含めた関係者への説明の不十分さ、決定権者の不明確性など、展示のコミュニケーション上の疑問も指摘されている。芸術監督自身の肝いりで出展が決まったことや、「不自由展」が複数の作品の集合体である、いわば展示

「あいちトリエンテナ2019 情の時代」が揺れている。この国際芸術祭の中核の一つである国際現代美術展の出品作品である「表現の不自由展・その後」の展示が、わずか三日間で打ち切りになったからだ。これに抗議する他の作家の作品展示の終了や変更が続いたり、序列でいえばナンバー2の企画アドバイザー東浩紀氏が辞任したりと、話題に事欠かない。その後、主催者という立場から中止を決めた愛知県知事である大村秀章・実行委員会会長が、職権であいちトリエンテナのあり方検証委員会を立ち上げた。一方で、同委員会会長代行の河村たかし

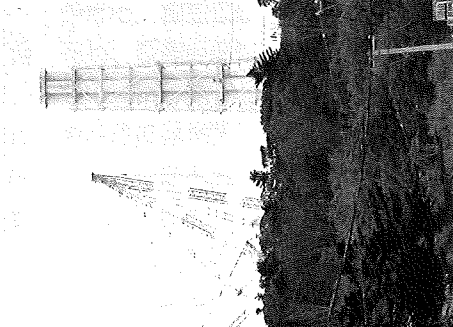
## 日々論々

# の行方



ヒラメの稚魚の養殖などを行っていた大熊町は、津波で破壊された。震災当時のままだった。=2019年7月12日撮影

原発の排気筒と大型クレーン。2019年7月12日撮影



東京電力福島第一原発の事故で放射能に汚染された福島県内の土壌を保管するため、環境省は双葉、大熊両町にまたがる約千六百畝の区域に中間貯蔵施設を整備中だ。

同省は七月末までに、地権者の73%、面積の70%で契約を完了した。

八月八日には大熊町にある汚染土の受け入れ、分別施設が運転を開始し、運転中の同種施設は九つとなった。一帯はほとんどが帰還困難区域で、工事関係者や旧住民以外の立ち入りが制限される一聖域だ。そのため、汚染土の関

連施設以外は八年半前から時間が止まっている。ヒラメの稚魚の養殖施設も津波で破壊されたままだ。八月に行われた第一原発の汚染水に関する政府の小委員会では、「置き場のなくなる汚染水タンクを中間貯蔵施設用地に置

けないか」という提案があったという。この報道を聞き、「王だけでなく水もか」と一部地権者が困惑したことは言うまでもない。(写真・飛田豊秀 文・長久保宏美)

福島県松川運動記念会=電024(523)4183=。

◆JR只見線動画 東京駅で放映 福島県は10月31日まで、JR東京駅構内の電子広告板でJR只見線のPR動画を放映する。2021(令和3)年度の全線再開を目指し、只見線と沿線地域の魅力を発信し、観光客PRする。

動画は15秒で、三島町の第一只見川橋梁(きょうりょう)や只見町の田子倉湖など沿線の紅葉に染まった絶景を紹介する。県が昨年制作したプロモーション動画の映像から秋の風景を抽出してまとめた。1日当たり170回以上放映する。

電子広告板の画面は70センチ、内の東北・上越・北陸新幹線・南乗換口の柱に設置されている。

※福島県産品や催し物の案内を、原則毎月第2木曜日に掲載します。



日本橋ししまね館

営業時間 平日 午前10時30分~午後6時 土日祝日 午前11時~午後6時 (年末年始は休館)

〒03-0227 3917

はNPO